

目的に応じて必要な情報を整理して説明する力を育てる国語科学習指導の工夫

— 一つの文章を基にして複数の説明に書き分ける学習を取り入れた単元づくりを通して —

三原市立久井中学校 井上 靖子

研究の要約

本研究は、目的に応じて必要な情報を整理して説明する力を育てる国語科学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から、本研究における説明する力を「ある事柄について、それをよく知らない人に分かりやすく伝える力」であると定義し、目的に応じて情報を整理することは説明する力の土台にあたる重要な段階であると考えた。そこで、一つの単元の中で、一つの文章を情報の基とし、複数の目的を設定して説明を書き分け、説明の仕方を比較して検討するという単元を構成した。その結果、説明の違いを相対的に捉え、説明の仕方を身に付けさせることができ、目的に応じて必要な情報を整理して説明する力に高まりが見られた。このことから、一つの文章を基にして複数の説明に書き分ける学習を取り入れることは、目的に応じて必要な情報を整理して説明する力を高めるために有効であるといえる。

キーワード：説明する力 書き分ける 相対化

I 主題設定の理由

平成26年度全国学力・学習状況調査中学校国語（以下、「全国学力」とする。）において、「資料から必要な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことができるかどうか」（第1学年B書くことウ・第2学年C読むことオ）を見る問題（B2）の正答率が全国・本県とともに3割を切っており、全設問の中で最も低い正答率であった。また、「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ（中学校編）」（平成24年）でも、「文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある」と分析されており⁽¹⁾、この課題は継続的なものであるといえる。

課題の要因を明らかにするため、先述の問題について所属校における結果を分析すると、表1のようになった。この問題は、【本の一部】の情報を根拠にして、文章中には現象の理由を説明するものであり、目的に応じて文章中から情報を得て、その情報を整理して記述することが求められる。所属校では、問い合わせの意味を捉えきれていないかたり、説明するのに十分な情報を得ることができていなかつたりして、4割以上の生徒が目的に応じて必要な情報を得ることができていなかつた。また、約3割の生徒が、必要な情報を見付けることはできたものの、

適切に分類し、関係付けたりするなど情報の整理ができていなかつた。

この分析から課題の要因として、目的に応じて文章中から必要な情報を得る力、さらにはそれらの情報を整理する力が身に付いていないということが挙げられる。

そこで本研究では、目的に応じて必要な情報を整理して説明する力を育成する学習過程を明らかにし、その力を高めるための学習指導の工夫を提案する。

表1 所属校における平成26年度「全国学力」B2三の結果の割合

正答	文章から必要な情報を得ることができない。	19%
誤答	伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことができない	44%
無解答		31%
		6%

II 説明する力について

1 説明する力とは

巳野欣一（1991）は、作文教材としての説明文とは、「ある事柄について、よく知っている表現者が、その事をまったく知らないか、よく知らない相手に對して、事柄を整理し、順序立てて分かりやすく解き明かす文章をいう。」⁽¹⁾と述べている。米田猛（2006）は、説明するという言語行為は「ある事柄

についてよく知っている人が、ある事柄について知らない人、分からぬ人に対して、外見や客観的観察だけではとらえにくいさまざまな事柄について、実物・模型・図解などの手法を駆使して、ある事柄について理解や納得を得る言語行為」であると述べている⁽²⁾。岩間正則(2010)は説明することとは「ある事柄についての情報を整理して分かりやすく伝えること」⁽²⁾であると述べている。

また、「説明文」について、中学校の教科書における定義を見ると、「中学生の国語 学びを広げる 三年」(三省堂 平成24年)では、「体験・経験や調査・研究したこと、ある物事の成り立ちや構造・はたらき・価値などを、それをよく知らない人に伝える文章である。課題に対して答えるという構造に特質がある。」⁽³⁾とされている。

説明するために必要な力について文献と、全5社の教科書の扱いをまとめると表2のようになる。

この表2に基づいて、本研究において説明する力とは、ある事柄について、それをよく知らない人に分かりやすく伝える力であると定義し、その力を構成する要素を次の6点に整理した。

- ①情報収集(取材の方法、情報の理解)
- ②情報の整理(絞り込み、分類、関係付け)
- ③構成(情報を伝える順番)
- ④記述の仕方・様式
(項目を立てる、経験に基づくなど)
- ⑤表現方法(語句や文、例、比喩)
- ⑥伝えるための工夫
(資料、図表やキャッチコピーなどの利用)

説明する力を構成する要素

2 説明することと目的の関係について

「書くこと」の目的について、小学校学習指導要領解説国語編(平成20年)には、「書く目的としては、伝える、報告する、説明する、依頼する、案内するなど、具体的な生活の中で必要となるものを取り上げるようにすることが望ましい。」⁽⁴⁾とあり、書く目的は伝える相手や場面によって設定され、書き表される文章の形態まで規定するものである。この捉え方は、中学校でも同様である。

この捉え方によると、説明することはそれ自体が目的の一つといえる。しかし、「平成26年度全国学力・学習状況調査報告書」(平成26年)では、冒頭に挙げた課題に対する学習指導について「説明する際には、複数の情報を正確に理解し、相手や目的に応じて取捨選択したり、関係付けたりして説明する内容を適切に表現することが求められる」⁽⁵⁾ (下線は稿者)と指摘している。この場合の「目的」は、「説明する」という大きな目的を、「何を説明するか」という点でさらに細分化した目的だといえる。

「報告文を書く」、「依頼文を書く」などのように「大きな目的」を設定すると、それぞれに応じた情報収集や構成、記述の方法の大まかな学習はできる。しかし、文章の形態が大きく異なるため、情報収集から記述までの過程も大きく変わり、伝えたい内容による情報の整理や構成の違いを比較しにくい。

そこで、本研究では「目的」を「説明を通して理解や納得を得たいこと」とし、説明する力を育成する学習指導について考察を進める。

表2 説明する力の分類

	米田猛(2006)	岩間正則(2010)	教科書の学習活動(平成24年版)
①情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ○話題・題材を設定する ○材料を集め、選ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・取材の手順や方法 ・情報の正しい理解、必要な情報の選択 ・疑問を解決する手段や方法 ○文章の内容の大体を把握する 		<ul style="list-style-type: none"> ○伝える相手や目的を明確にして情報を集める ○テーマを決めて調査する ○さまざまな方法で取材活動する
②情報の整理	<ul style="list-style-type: none"> ○自分でどこで必要な部分を探す ○情報を問題の解決のために役立てる <ul style="list-style-type: none"> ・役立てられそうな部分 ・内容の再構成 ○読み取ったことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・整理・要約・必要な内容の補足 ・重要な順序に並べ替え ○事実と意見の対応を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○問い合わせと答えの関係を明確にする ○情報を絞り込む ○情報の整理する ○情報を関係付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報を工夫して整理する ○集めた情報を分類整理する ○伝える事柄の特徴や、共通点・相違点などを明確にする ○観点を決めて自分の考えをまとめる
③構成	<ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすい構成を作る <ul style="list-style-type: none"> ・段落の順序 ・詳しさの程度や分量 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を伝える順番を考える <ul style="list-style-type: none"> ・構成 ・演繹的な説明、帰納的な説明 	<ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすく伝えるために書き方や構成を工夫する
④記述の仕方		<ul style="list-style-type: none"> ○記述の仕方を工夫する <ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序、空間的な順序、作業の順序、ナンバリング ・項目立て 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的で効果的な記述の仕方を考え描写を工夫する
⑤表現方法	<ul style="list-style-type: none"> ○正しく分かりやすい叙述にする 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現の仕方を工夫する <ul style="list-style-type: none"> ・資料を使い視覚化 ・比喩を使いイメージ化 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現を工夫して書く ○分かりやすい表現になるように語句や文、文章の構成を見直す
⑥の伝え方		<ul style="list-style-type: none"> ○効果的なプレゼンテーションをする <ul style="list-style-type: none"> ・資料の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ方を工夫する ○図表やキャッチコピーなどを効果的に用いる ○数値の示し方や、図表の示し方、列挙の仕方などを理解する

3 説明する力を育てる学習過程

米田（2006）は説明文を書くことの指導では、読み手にとって必要で価値ある情報を的確に示すことが大切であり、「読み手」に配慮できる「書き手」を育てる必要があると述べている⁽³⁾。中学校の教科書を見ると、「新しい国語 三年」（東京書籍 平成24年）には、何かを説明するときには、何が問われていて、それをどういう相手に説明するのかを、常に考えるようにする。自分がよく分かっていることほど、説明不足になりがちであるから、相手のことをよく考えて分かりやすく説明することを心がけなければならないと示されている⁽⁴⁾。また、岩間（2010）は「説明する力を育成するためには、第一に何について説明するのか、情報を目的や相手意識をもとに整理しなければ、肝心な情報がきちんと伝わらない」と述べている⁽⁵⁾。以上のことから、本研究では、目的（課題・相手・場面）に応じて情報を整理することを説明する力の土台と位置付け、説明する力を育てるための学習過程を図1のように設定する。学習過程は二つの段階があり、まず、「目的に応じて必要な情報を整理する段階」で、情報の収集や情報理解を行い、集めた情報を分類整理し、構成を考える。次に、「分かりやすい記述をする段階」で、相手が理解し易いような記述の仕方や様式、表現方法等の分かりやすい記述をする技術を身に付けていく。実際の学習では、これらの段階は一方向に進むものではなく、情報に応じて分かりやすい記述を考え、記述に応じて適切な情報整理が行われなければならず、二つの段階を往還しながら説明していく。

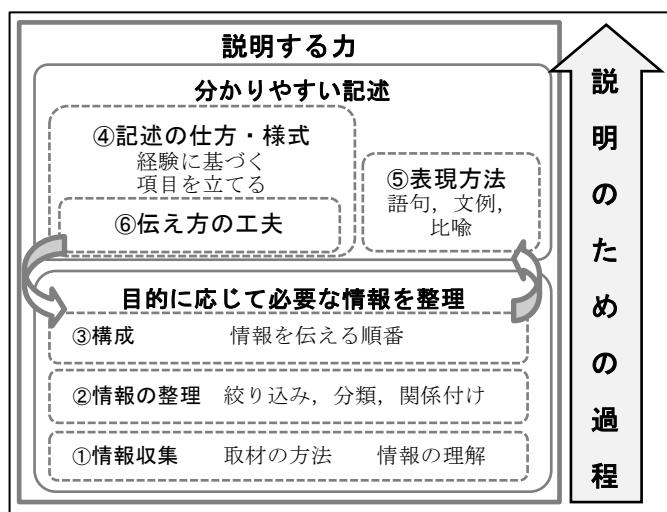


図1 説明する力を育てる学習過程

III 目的に応じて必要な情報を整理して説明する力を育てる単元構想について

1 教科書における書くことの単元の実態

目的に応じて必要な情報を整理する学習は、教科書での扱いがあるにもかかわらず、依然としてこれに関する力が課題となっている。教科書の場合、基本的に一つの単元で一つの目的が設定されており、複数の単元を連続的に扱ったり、単元間に系統性をもたせない限り、目的に応じて情報の整理の仕方が変わったり、記述の仕方が変わったりすることが得しにくいことが理由として考えられる。

さらに、全5社の教科書について、書くための基になる情報を調査したものが表3である。

表3 書くときの基になる情報（表中の数字は単元数を表す）

書くときの基になる情報		単元数
体験		22
文 章 以 外	体験+調査、体験+観察	11
	調査	12
	作品	63
	絵、4コマ漫画、広告、写真、ポスター	12
	俳句、故事成語、俳句、短歌、歌詞2	6
文 章	自分の学習内容	2
	作品	2
	他の人の書いた文章	12
	行事内容	3

教科書の場合、書くときの基になる情報を文章にしているものが12単元であるのに対し、文章以外の自分の体験や調査等としているものが63単元と多いことも分かった。自分の体験や調査は、他者の書いた文章に比べ情報収集、情報理解の段階が容易にできる。書くときの基になる情報が論説文や説明的な文章などのように高度になると、対応できず、教科書をそのまま扱うだけでは、課題となっている力を育成するのに十分ではない。

2 授業アイディア例に示されている改善例

先述の「全国学力」の結果を踏まえて、国立教育政策研究所から「平成26年度全国学力・学習状況調査 授業アイディア例」（以下、「授業アイディア例」とする。）に改善例が示されている。料理本のコラムと魚の事典から適切な情報を得て、質問に対する回答を書く学習が提案されている。この改善例は、文章を情報として説明を書くことの学習はできるが、これも目的が一通りであり、課題となっている力に対応するには、他の目的でも説明できるようにする指導の工夫が考えられる。

3 目的を相対化させる単元構想

中学校学習指導要領解説国語編（平成20年）では、「一つの文章では気が付かなくても、複数の文章を比較しながら読むことにより、構成や展開、表現の

仕方等の違いが分かってくることがある」⁶⁾とあり、高等学校学習指導要領解説国語編（平成22年）では、「同じテーマについて、様々な立場や角度から述べた文章を読み比べることは、読み手の視野を広げ、テーマや文章を客観的にとらえ、相対化することにつながる。」⁷⁾と書かれている。いずれも読むことの学習においての記述であるが、複数の文章を相対的に比較することは、文章を分析的に捉える上で有効であることが述べられている。このことを自分で書いた文章を読む場合にもあてはめれば、複数の説明に書き分け、それらを読んで比較することで、書き方を相対的に捉え、目的に応じた情報の整理の仕方や構成の仕方の違いを理解させられるなど、説明する力を育てることにつながると考えられる。また、書いたものを比べることでその違いに気付き、それぞれの良さや効果を知ることができるために、より良い説明の仕方を身に付けることができると考える。

先行研究を見ると、岩間は四通りの説明の仕方を学習する単元として、様々な課題に取り組む学習を設定している⁶⁾。朝の情報番組を「時間の経過に沿って説明する」、新聞記事を「5W1Hをおさえて説明する」、保護者への体育祭の案内を「項目を立てて説明する」、同じ種類のものや似ているものについて「比較して説明する」という四つの説明の仕方すべてに取り組む学習である。岩間の単元案は、説明の仕方が相対化され、汎用性の高い説明の仕方を身に付けさせることができると考えられる。

4 一つの文章を基にして複数の説明を書き分ける単元構想

教科書、「授業アイディア例」、岩間の案の単元のイメージをそれぞれ図2、3、4に示す。（図中の○はメリットを、●はデメリットを表す。）²⁾の定義を踏まえ、本研究における目的を【目的】とする。岩間の単元イメージは、説明の仕方を相対的に捉えられる点で有効であるが、文章の形態が様々で、情報の整理や構成の仕方を相対的に捉えることには適していない。また、それぞれの目的の基にする情報が異なり、情報を理解することに時間がかかると考えられ、生徒実態によっては実践が困難になることが想定される。

本研究では、「授業アイディア例」、岩間の単元案を踏まえ、図5に示すように、一つの単元の中で、一つの文章を情報とし、複数の目的を設定して説明を書き分ける単元を構築する。複数の目的を設定することで、目的の設定の仕方や、様々な目的に応じ

て情報を整理し、説明の仕方を検討するという学習指導が効果的に行えると考える。そのことにより、説明の違いを相対的に捉え、説明の仕方を身に付けさせることができると考える。

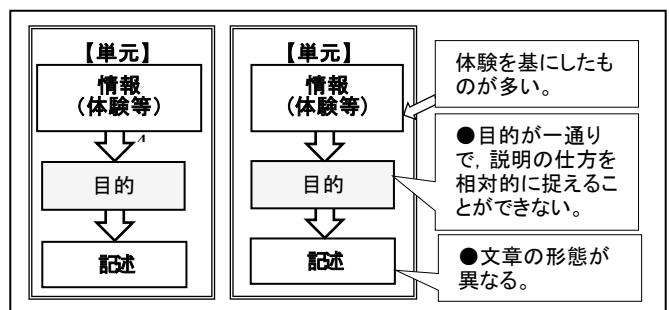


図2 教科書の単元イメージ

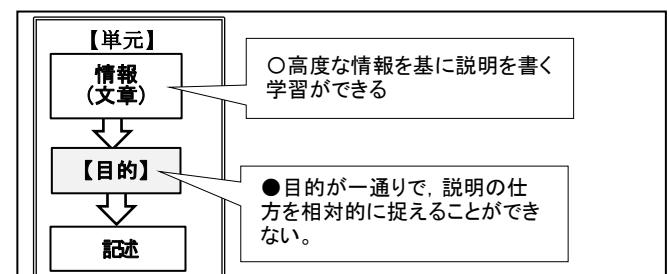


図3 授業アイディア例の単元イメージ

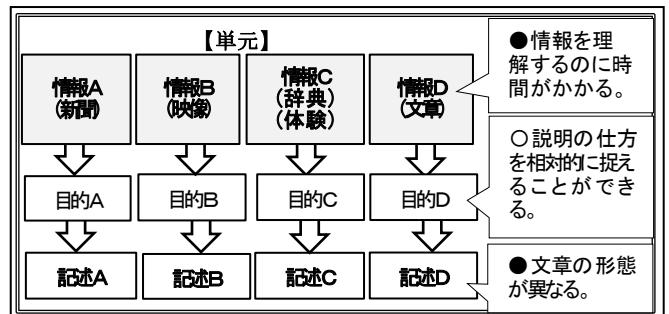


図4 岩間の単元イメージ

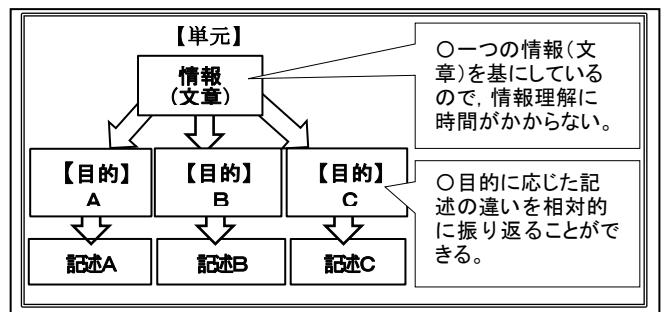


図5 本研究の単元イメージ

IV 研究の仮説と検証の視点と方法

1 研究の仮説

一つの文章を基にして複数の説明に書き分ける学習活動を設定すれば、目的に応じて必要な情報を整理して説明する力が育まれるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法を表4に示す。

表4 検証の視点と方法

検証の視点	方法
○目的に応じて必要な情報を整理して説明できていたか。	ブレテスト ポストテスト 事前アンケート 事後アンケート
○一つの文章を基にして複数の説明に書き分けるという手立てが有効だったか。	ワークシート

V 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期間 平成26年12月9日～平成26年12月17日
- 対象 所属校第2学年（1学級31人）
- 単元名 いろいろな説明を書こう
- 学習材 「食の世界遺産 鰐節」小泉武夫
- 目標

目的に応じて文章から適切な情報を得て、情報の整理を行い、構成を工夫し、伝えたいことが分かりやすく伝わるように説明を書くことができる。
(指導事項は、主に第2学年の「B書くこと イ自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること」を受けて設定している。)

2 指導計画（全7時間）

次	時	主な学習内容	説明する力
一 的に応じた説明を書く	1	・何かを説明する文を書くときのことを振り返り学習の見通しをもつ。 ・「食の世界遺産」を読んで、書くための情報を理解する。	
	2	・「鰐節の作り方」を説明する。 ・「荒節」とはどのようなものかを説明する。	・情報の整理 必要な内容と補足的な内容を区別する。 接続関係を表す言葉に注意する。 時を表す言葉に注意する。
	3		・構成 分かりやすい情報のつながりを考える。 説明の仕方 時間（工程）に沿った説明をする。
	4	・「鰐節が『食の世界遺産』であるといえる理由」を説明する。	・情報の整理 必要な内容と補足的な内容、具体例とまとめを区別する。 言い換えている言葉に注意する。 情報の関係付けをする。 情報を分類する。
	5	・自分が考える先達の知恵の深さやユニークな発想について説明する。	・構成 情報同士の関係や情報のバランスを考える。 ・情報収集 必要な情報を集める。 ・情報の整理
	6	・前時までに書いた説明を比較し、目的に応じた説明の違いを考える。	・構成 情報同士の関係や情報のバランスを考える。
三	7	・修学旅行スクラップブックに「鰐節」についての説明を書く。	

3 授業の工夫

(1) 目的に応じて必要な情報を整理する学習に重点を置いた指導

先述の「全国学力」の結果を踏まえて研究授業では、目的に応じて必要な情報を整理する学習に重点を置いた指導を行う。

事前アンケートで、説明を書くときに何に難しさを感じているかを調査した。図6は各項目について「できる」、「ほぼできる」という肯定的な回答をした生徒の割合である。情報の分類や関係付けを難しく感じている生徒が多いことが明らかになった。

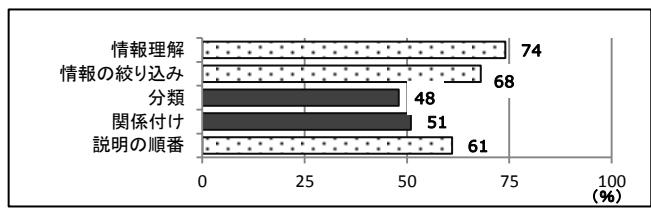


図6 事前アンケート結果(肯定的な回答をした生徒の割合)

授業では、情報を分類ごとに色分けしたり、情報同士のつながりや、関係性が分かるようカードを使い、情報整理の方法を視覚的に示すようにする。また、グループ内で、それぞれが書いた説明を読み合ったり、同じ情報を取り出して書いた説明の良い例と悪い例を示したりして、分類や関係付け、説明の順番を比較させ、より分かりやすい説明について考えさせるようする。

(2) 目的による説明の違いを相対的に捉えさせる指導

三つの目的に応じた説明を書き分ける学習では、共通の形式のワークシートを用いる。「目的・相手・説明」の記述項目の統一とともに、説明を書くための手順を「情報収集、情報の整理、構成、記述」という段階で毎時のワークシートに記載することによって可視化し、第6時で、目的による説明の違いを相対的に捉えられるようする。

1 情報を集める

①説明する内容に関係する段落に○を付ける。

2 情報を整理する

①説明に必要な部分に一を付ける。

②説明に必要な部分を = で消す。

③内容の関連を考えて分類する。

④関係のあるものをグループでまとめる

3 構成を考える

①どのような順番で伝えると分かりやすいか考え順番を付ける。

4 説明を書く

①相手に応じた言葉遣いや語句を考える。

②相手がよく分かるような工夫をする。

(必要な内容を補う、具体例やたとえを使うなど)

③前後のつながりを考える。

説明を書くための手順

VI 研究授業の結果分析と考察

1 分析の方法

事前・事後アンケート、プレテスト・ポストテスト、ワークシートで分析を行う。

表5に示すように、プレテスト、授業、ポストテストの目的と説明を書くための力を統一し、目的に応じた説明する力が測れるものとする。

2 目的に応じて必要な情報を整理して説明できていたか

プレテスト・ポストテストの結果は図7のとおりである。どの設問もA評価が増加し、C評価・無解答が減少していることから、目的に応じて必要な情報を整理して説明する力は高まったといえる。

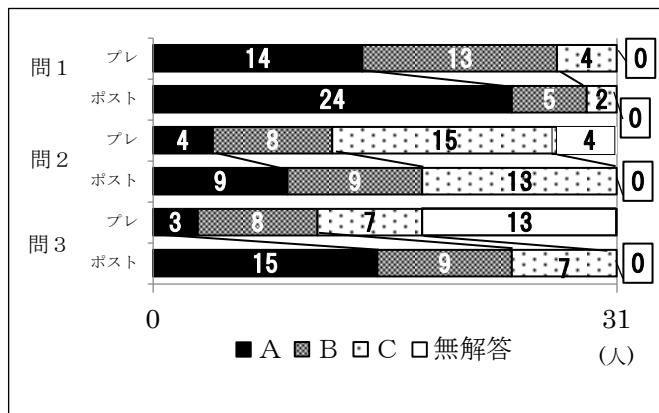


図7 プレテスト・ポストテストの結果

問1は「文章中で出てくる事柄について他者に理解を得る」ことを目的とするものであり、表5で示すように情報の絞り込みが必要な力となる。必要な情報は三つあるが、いくつの情報を用いて説明を書いているかをプレテストとポストテストで比べると図8のとおりである。

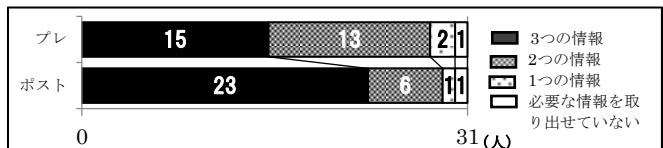


図8 問1の説明で用いた情報の数

三つの情報全てを絞り込むことのできた生徒は、23人に増加している。「鰯節の作り方」の説明を書く授業において、接続する言葉などに注意しながら、全体の大まかな内容を把握し、その後、目的に照らし合わせてみて、必要な部分や役立ちそうな部分を探し、補足的な内容などは外して、必要な情報に絞り込む学習が有効であったといえる。

問2は、「文章中にある二つの事柄の関係について他者に理解を得る」ことを目的とするものであり、情報の分類・関係付け・情報を伝える順番を考えることが必要である。情報の分類・関係付けは、事前アンケートで生徒が最も苦手意識をもっていたものである。そこで、「鰯節が『食の世界遺産』であるといえる説明を書く」授業では、絞り込んだ情報をマッピングにより分類し、相手に分かりやすい説明に

表5 授業とプレテスト・ポストテストの対応表

目的	説明する力	プレテスト	授業	ポストテスト
		基になる文章 「食感のオノマトペ」 早川文代		基になる文章 「オオカミを見る目」 高槻成紀
文章中で出てくる事柄について他者に理解を得る。	情報収集 情報の整理 ・文章の大体を理解している。 ・必要な情報を絞り込んでいる。	【問1】 筆者が「食感に関する日本語のオノマトペ」について調べた結果、分かったことを三つ説明する。	【2・3時】 ・「鰯節の作り方」を説明する。 ・「荒節」とはどのようなものかを説明する。	【問1】 「狂犬病」とはどのような病気なのか、本文に基づいて説明する。
文章中にある二つの事柄の関係について他者に理解を得る。	情報の整理構成 ・必要な情報を絞り込んでいる。 ・情報をグループに分類している。 ・グループ同士の関係から、構成を考えている。	【問2】 「すかすか」と「ぶるぶる」の使われ方の違いについて、理由を挙げて説明する。 ※二つの事柄…「すかすか」と「ぶるぶる」	【4時】 「鰯節が『食の世界遺産』であるといえる理由」を説明する。 ※二つの事柄…「鰯節」と「食の世界遺産」	【問2】 日本でのオオカミに対するイメージが変化した理由を説明する。 ※二つの事柄…「オオカミの昔のイメージ」と「オオカミの今のイメージ」
文章中に述べられている事柄と類似する事柄について自分の体験や知識を踏まえて他者に理解を得る。	情報収集 情報の整理構成 ・筆者の説明の仕方を参考にしている。 ・目的に合わせて自分の経験や知識などの必要な情報を関係付けている。	【問3】 「がつり」を若年層はよく使うものの、中高年層はあまり使わない理由について、筆者の説明の仕方を参考にして自分で考えて説明する。	【5時】 自分が考える先達の知恵の深さやユニークな発想について説明する。	【問3】 スズメはヨーロッパでは、人の手に乗って餌を食べたりするが、日本ではスズメが人から離れる理由を自分で考えて、筆者の説明の仕方を参考にして説明する。

なるように順番を考えさせるようにした。

問2について、プレテストのC評価からポストテストでA評価になった生徒aの記述の変容を次に示す。

《プレテスト 問2の記述》

「すかすか」は中高年層に好まれるリズムで、それはかつて農作物の品質が悪かったためである。これに対して、「ぶるぶる」は若年層の使用頻度が高く、農作物の品質が向上したため、若い人はよく使うオノマトペである。

《ポストテスト 問2の記述》

昔の日本では、米を作る稻作が盛んで、その稻を狙うシカやイノシシを殺してくれるオオカミは神のようなイメージだった。しかし、現在の日本は、江戸時代の中頃に海外から入ってきた狂犬病の影響により獰猛になったオオカミはにわかに忌まわしいイメージになった。

(下線は稿者による加筆)

問2の評価がCからAになった生徒aの記述の変容

生徒aは、プレテストでは、情報の分類がうまくできておらず、「ぶるぶる」の説明の中に「すかすか」の特徴に関わりのある農作物のことが書かれている。また、情報のつながりも明確でなく、「すかすか」の説明の中に出てくる「農作物の品質が悪かった」と「中高年層に好まれるリズム」とのつながりが分からぬ。ポストテストでは、オオカミについて昔と今のイメージについて情報の分類がされており、またイメージを生み出した理由の説明も情報がつながりをもって書かれている。

また、図9で示すように、情報の分類や関連付けについて、「できる」、「ほぼできる」という肯定的な回答が事後アンケートでは増えており、意識の上からも苦手意識が少なくなったことが分かる。

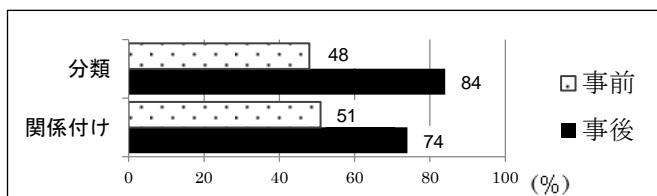


図9 事前・事後アンケートで肯定的な回答をした生徒の割合

問3は、「文章中に述べられている事柄と類似する事柄について自分の体験や知識を踏まえて他者に理解を得る」ことを目的とするもので、自分の体験や知識による情報の補足、情報の分類、関係付けが必要となる。プレテスト・ポストテストの判定の変容は表6のとおりである。プレテストでは無解答だった13人も、ポストテストでは記述し、8人がA評価に、3人がB評価になった。

表6 問3のプレテスト・ポストテストの判定の変容

ボスト プレ	A (8~10点)	B (5~7点)	C (0~4点)	無解答	計 (人)
A	2	0	1	0	3
B	3	3	2	0	8
C	2	3	2	0	7
無解答	8	3	2	0	13
計 (人)	15	9	7	0	31

「自分が考える先達の知恵の深さやユニークな発想について説明を書く」授業でも、マッピングを使い情報を整理する学習を行った。自分の知識や体験を収集しやすいようマッピングを使って広げると同時に、図10のように一枚のワークシートに基になる文章の情報の整理と、自分が書こうとする説明の情報の整理の二つのマッピングを並べて書くことにより、作者の説明の仕方を参考に自分の説明を書けるようにしたのが有効であったといえる。

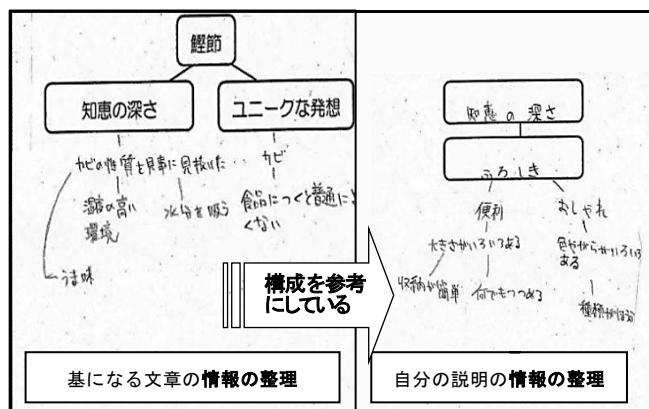


図10 第5時のワークシートの記述の一部

しかし、問2・問3の評価がポストテストにおいてもC評価である生徒がそれぞれ13人、7人いる。

これらの生徒の記述を見ると、情報理解が十分でなく、情報の絞り込みができない。基になる文章の量を少なくしたり、易しめの内容のものを使ったりして、情報理解の負担を減らして説明を書く力の育成を図りたい。さらに、読むことの単元との関連を図り、論説文や説明的な文章を扱う際には、説明を書く学習を取り入れていきたい。

3 一つの文章を基にして複数の説明に書き分けるという手立てが有効であったか

一つの文章を基にして四つの説明に書き分ける学習を行った後、第二次の末で、前時までにどのように説明を書いたかを、情報収集、情報の整理、構成、記述の観点で比較した。それぞれの観点を並べて俯瞰して比べることで、情報を整理する方法や構成の

考え方の違いを相対的に捉えることができ、目的に応じた説明の仕方を理解することができた。次に示す生徒の記述からも、目的に応じて「時間の順番に説明する」構成や、「自分で順番を組み替える」構成があることを学んでいることが分かる。

	①鰯節の作り方	②「食の世界遺産」であるといえる理由	③先達の知恵の深さやユニークさ
情報整理	<ul style="list-style-type: none"> 接続を表す言葉に注目する。 補足する言葉を外す。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要なところを抜き出す。 情報が離れていても分類する。 グループに分ける。(まとめ・詳しい説明・付け加え) 関係図みたいのをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループに分ける。 組み合わせを考える。
構成	<ul style="list-style-type: none"> 文章に出てくる順番通り。 時間の順番。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で順番を組み替える。 つながりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事実→意見

第6時のワークシートに記述した表の一部

「目的にふさわしい説明の仕方を考えることができたようになったか。」という質問に対する肯定的評価も図11で示すように17人から22人に増加した。

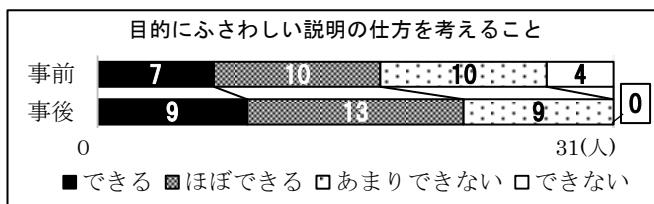


図11 事前・事後アンケートの結果

また、「今回の学習を通して、説明の仕方について分かったことを書きなさい。」という質問に対する記述からも、同じ文章を基に複数の説明を書く学習を通して、目的に応じて情報の整理や構成が異なることを学ぶことができたことが分かる。

○書くための情報を大まかに分けて、その後ナンバリングやグループ分けをするといいことが分かった。目的によって、もとの文章の順番のまま書いた方がいい説明と、根拠→結論結論→根拠 というふうにもとの文章の順番ではなく、分かりやすく順番を変えた方がいい説明があると分かりました。(A A無解答→A A A)
 ○説明する目的によって手順通りに書いたり、分類して大まかにこと→詳しく書く というように書いたり、書き方を工夫することが分かりやすい説明になることが分かった。(A B B→A A B)
 ※()内はプレテストとポストテストの問1~3の評価の変化

事後アンケートの記述

以上のことから、一つの文章を基にして複数の説明に書き分ける学習は、目的に応じて必要な情報を整理して説明する力を育てるのに有効であったといえる。

VII 研究の成果と課題

1 研究の成果

一つの文章を基にして複数の説明に書き分ける学習活動を行うことは、目的に応じて必要な情報を整理して説明する力を育むことに有効であることが明らかになった。

2 今後の課題

研究授業の結果分析から明らかになった課題に基づいて、説明する力を高める指導を継続する。また、文章を基にして説明していくことは、内容の大体を把握し、文章の構造を捉え、筆者の論の進め方や主張を読み取ることになり、基の文章を深く理解することにつながる。読むことと書くことの関連を図りながら、書くことによって読む力を高める学習にしていきたい。

【注】

- (1) 国立教育政策研究所教育課程研究センター(平成24年)：『全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取り組みが期待される内容のまとめ(中学校編)』教育出版 pp. 6-8に詳しい
- (2) 米田猛(2006)：『説明力を高める国語の授業』明治図書出版 pp. 12-13に詳しい
- (3) 米田猛(2006)：前掲書 p. 72に詳しい
- (4) 文部科学省検定済教科書中学校国語科用(平成24年)『新しい国語 三年』東京書籍 p. 230に詳しい
- (5) 岩間正則(2010)：『中学生の「記述力」を育てる6つの要素』明治図書出版 pp. 21-22に詳しい
- (6) 岩間正則(2010)：前掲書 pp. 80-85に詳しい

【引用文献】

- 1) 川野欣一(1991)：『国語教育研究大辞典 普及版』明治図書出版 p. 554
- 2) 岩間正則(2010)：『中学生の「記述力」を育てる6つの要素』明治図書出版 p. 21
- 3) 文部科学省検定済教科書中学校国語科用(平成24年)『中学生の国語 学びを広げる 三年』三省堂 p. 104
- 4) 文部科学省(平成20年)：『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社 p. 56
- 5) 文部科学省(平成26年)：『平成26年度全国学力・学習状況調査報告書中学校国語』国立教育政策研究所 p. 72
- 6) 文部科学省(平成20年)：『中学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社 p. 73
- 7) 文部科学省(平成22年)：『高等学校学習指導要領解説国語編』教育出版 p. 53